



東北大学グローバルCOE

Network Medicine

創生拠点

NM高等教育セミナー

鈴木 民夫 博士

(山形大学医学部皮膚科・教授)

遺伝性脱色素異常症の最近の 話題～美白遺伝子などなど～

2012年4月27日(金) 19時-20時
医学部1号館大会議室

遺伝性対側性色素異常症 (dyschromatosis symmetrica hereditaria, DSH) は、東北大学皮膚科初代教授遠山郁三先生により報告された疾患で、日本人やアジア人に多い色素異常症である。講師の鈴木民夫山形大学教授は、DSHの原因が、ADAR1/DSRAD (double-stranded RNA-Specific Adenosine Deaminase)の遺伝子異常にあることを突き止めた。そのほかの遺伝性色素異常症でも、c-KitやHPS1 (Hermansky-Pudlak syndrome 1)遺伝子などで日本人における変異部位の検索に精力的に取り組まれ、変異遺伝子機能から見た色素形成・脱失機構について研究を進めている。

本セミナーでは、色素異常症の病態を中心に色素細胞機能について紹介し、遺伝性色素異常症の変異遺伝子解析の知見から解明されてきた新たな分子機能も合わせて紹介頂く予定である。

本セミナーは医学履修課程特別セミナー等を兼ねています。受講学生は履修簿を持参し、セミナー修了後にサインを受けること。聴講は自由大歓迎です。学部生の皆さんもぜひどうぞ。

拠点リーダー 岡 芳知 / 世話人 相場 節也(皮膚化学分野)
問い合わせ先: 内線7271